

# 坂本まちづくり推進協議会たより

## (26年度活動報告)

平成27年6月発行

平成26年度規約の大幅改定により活動開始した新体制「坂本まちづくり推進協議会」はともかくも一周年を迎えた。

坂本区長会との連携関係も強化され、まち協決定事項は区長会によるオーソライズがなされ対外的（主として対行政関係）にも当初の目論見通り進行中である。

現在の坂本地域を取り巻く環境は、中津川市のどの市域にも例がない事態である。即ち地域全体が何らかの公共事業若しくは、民間ベースの様々な開発、事業進出計画等にさらされており、地域住民の大きな不安要因となっている。

これらすべてを「区長会組織、まち協組織」で受け止め対応せよ！というならばそれは大変酷な注文と言えよう。しかしながら他にそれらを軽減してくれる組織は存在しない。この三年間私は個人を最小限に抑えタフな任務に取り組んできた。そのことに何の手間暇を惜しむものではない。それは覚悟して引き受けた役職だと思っている。

だが区長会、まち協の立場はそこに「開発計画」ありきではない。計画が「公共の利益」最優先であること、その視点で計画の適不適をチェックして行く立場にあると考えている。民間事業のことは関係当局に任せ、公共事業面で行政と連携すべきであろう。

さいわい、中津川市行政当局はこれら「坂本の苦難」を真摯に受け止めてくれており、ともに考えともに悩み、問題解決にあたってくれていると信頼を寄せている。

今年度はできる限り次世代を担う、若い人たちの新鮮な考えを吸収して行くことを考えたいと思っている。生活がかかっている若い世代は年金暮らしの小生達のように時間が自由にならない。

まち協等の会合を昼間から可能な限り夜間にして貰いたいという声も多く聞かれる。

仕事現役の何人かの区長への配慮、また参加して知恵を出してくれる若い世代が来てくれるのならば、残業となる行政マンには申し訳ないが、無理をお願いしなければならないと考えるものである。

(区長会長・市岡 勉)

目次	ページ
1. 市政懇談会と平成27年度要望書（坂本区民の願い）について・・・	2
2. 坂本地区幼児教育施設拡充について・・・	4
3. リニア新幹線及び車両基地計画の現状と今後の動きについて・・・	5
4. 坂本まちづくりフォーラム2015について・・・	7
5. 濃飛横断自動車道計画の現状について・・・	9
正夢「坂本2027年」春・・・	10

## 1. 市政懇談会と平成 27 年度要望書（坂本区民の願い）について

26 年 9 月 9 日（火）に坂本まちづくり推進協議会と市の幹部との市政懇談会が開かれ、その後、11 月に市の回答結果、各部会の検討結果を踏まえて、27 年度の「区民の要望書」を作成しました。

# 平成27年度

# 要 望 書

## ～坂本区民の願い～



現在の坂本(H25 年 9 月:根ノ上中腹より)

### 坂本地域まちづくり推進協議会

## 各部会の要望事項（骨子）

### ● 総務部会

- A) 指定避難場所の再検討
- B) ソフト事業によるまちづくりの検討
- C) リニアに関連した土地利用構想の提示

### ● 文教部会

- A) 坂本中学校・小学校給食施設の充実
- B) リニア・濃飛横断自動車道路建設に伴う通学路の安全確保と教育環境の補償
- C) 坂本小学校、中学校教育条件の検討

### ● 環境部会

- A) 坂本地区の公共下水道および関連要望事項の早期実現
- B) 詳細な下水道事業計画の提示
- C) 濃飛横断自動車道路建設に係る環境保全

### ● 福祉部会

- A) 下水処理場「希望の里」の充実
- B) 美乃坂本駅周辺のバリアフリー化
- C) 交通弱者対策
- D) 内科医院開業支援等による医療と福祉の充実

### ● 農林部会

- A) 営農組合設立への支援
- B) 農業振興地域農用地区域と都市計画との明確なエリア分け

### ● 商工観光部会

- A) リニアのまち坂本を一望する高原公園のゾーン整備

### ● 建設部会

（緊急優先項目）

- A) 市道坂本 80 号線緊急避難進入路拡幅整備
- B) 市道坂本 161 号線拡幅改良（小野医院南側交差点上）
- C) 県道苗木恵那線改良
- D) 市道坂本 206 号線道路改良（曙クラブ前）
- E) 市道坂本 185 号線・同 186 号線拡幅改良（中津鋼材前）
- F) 一級市道五ツ峯～中畑線及び二級市道源濟～五ツ峯線拡幅改良

（最優先項目）

- G) 坂本地区内河川護岸・河床整備
- H) 市道坂本 136 号線 J R 陸橋歩道新設
- I) 一級市道坂本～西垣外線歩道設置（旭交差点～駅前）
- J) 市道坂本 264 号線道路安全対策（中町交差点～県道美乃坂本停車場線）
- K) 辻原橋架替え

（優先項目）

- L) 坂本川 J R 中央線アンダーパス周辺道路整備（中切地内）
- M) 国道 19 号線・同 257 号線の平面交差点道路改良
- N) 市道坂本 29 号線道路改良（辻原～工業高校）
- O) 市道坂本 75 号線及び市道中津 30 号線拡幅改良（星ヶ見～松源寺）
- P) 市道坂本 266 号線歩道設置（サクラメント～魔の十字路）

※ なお、この要望書の詳細な内容を知りたい方は、区長または坂本事務所まで問い合わせてください！





### 3. リニア新幹線及び車両基地計画の現状と今後の動きについて

26年10月17日に国交大臣より認可があり、11月から12月にかけて、事業説明会が行われました。27年度からは、中心線測量や車両基地においては境界線測量が始まります。

用地取得までのスケジュールは以下の通りです。

#### (地上区間)

	H27年度(27年4月～28年3月)				H28年度(28年4月～29年3月)				H29年度以降
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	
中心線測量	■								
設計協議	■								
用地説明			■						
用地測量				■					
用地取得					■				

※出典：中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書（岐阜県）のあらまし（平成26年8月）

#### (車両基地)

	H27年度(27年4月～28年3月)				H28年度(28年4月～29年3月)				H29年度
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	
境界確認	■								
中心線測量ほか、 各種調査	■								
設計協議	■								
用地説明					■				
用地測量					■				
建物等の調査					■				
用地取得					■				
土地への立入 (調査士・測量会社等)	■								

※出典：中央新幹線中部総合車両基地予定地において実施する境界確認に関するご説明資料

※測量に関しては、地元のご理解を得ながら進めて行き、また、並行して、国や地方自治体等の関係箇所と設計協議を進めていきます。

※工事説明会では、構造物の詳細な設計に基づき、施工会社を決定した後に、工事説明会を開催します。工事の具体的な施工方法や施工手順、工事中の安全対策、環境保全対策、工事用車両の種類、通行ルート、台数などについて説明します。

※工事実施にあたっては、地元の理解を得ながら、進めていきます。

また、JRは自主的な取り組みとして、工事期間中及び完成後のモニタリング（環境に関する追跡調査）を実施します。その内容は次ページの通りです。

## モニタリング内容（工事期間中）

調査項目		調査地域・地点の考え方	調査期間の考え方
大気質	二酸化窒素 浮遊粒子状物質 粉じん等	工事ヤード周辺や車両の主要なルートのうち、予測値と環境基準の差が小さい地点、寄与度の高い地点	工事最盛期に1回（四季調査）
騒音		工事ヤード周辺地点 車両の主要なルート	工事最盛期に1回
振動		工事ヤード周辺地点 車両の主要なルート	工事最盛期に1回
水質		工事排水を放流する箇所の下流地点	工事前に1回 工事中に毎年1回渇水期
水底の底質		掘削を行う河川	工事中に1回
水資源		山岳トンネル計画路線付近の井戸について、一定の集落の単位で選定	工事前に1回 工事中に毎年1回
土壌汚染		掘削土を仮置きする地点	事前の調査結果等に基づき実施の時期、頻度を決定
動物・植物（河川の周辺に生育する重要種）		減水の兆候の見られる箇所	各種の生活史及び生息特性等に応じて設定
生態系（湿地に生息・生育する注目種）		地下水の水位の予測検討範囲内の湧水湿地のうち、一定の地域の単位で選定	指標となる種の生活史及び生息・生育特性等に応じて設定

## モニタリング内容（完成後の測定）

調査項目		測定地域・地点の考え方	測定期間の考え方
大気質	二酸化窒素 浮遊粒子状物質	車両基地周辺の学校・住居等に配慮した地点	ボイラーの稼働が最大となる時期に1回
騒音	換気施設 列車走行	各換気施設の周辺の地点 環境対策工の配置状況を考慮し選定	供用開始後に1回
振動	換気施設 列車走行	各換気施設の周辺の地点 予測地点を基本に選定	
微気圧波		各トンネル坑口、各非常口周辺の学校、住居等に配慮した地点	
低周波音		各換気施設の周辺の地点	
水質	生物化学的酸素要求量（BOD）	車両基地からの排水を放流する箇所の下流地点	供用開始後の渇水期に1回
磁界		予測地点を基本に選定	供用開始後に1回

※出典：中央新幹線（東京都・名古屋市間 環境影響評価書（岐阜県）のあらまし（平成26年8月）

## 4. 坂本まちづくりフォーラム 2015 について

27年2月28日（土）坂本公民館ホールにて、「坂本まちづくりフォーラム 2015」を開催しました。基調講演とパネルディスカッションを行いました。その内容は以下の通りです。

『**基調講演：(地方創生とリニアのまちづくり) 須田寛氏（JR東海相談役）**』



### 基調講演の骨子

- リニア中央新幹線敷設事業と社会情勢の変容について
  - 社会の大きな変化を迎えている→少子高齢化と情報化・グローバル化、それに伴った生活の変化と地域の変貌
  - リニア中央新幹線敷設の二つの動機→東海道新幹線の老朽化とその限界、東海道新幹線のバイパス化（地震災害からの対応的措置）
- 高速道路網の整備は新たな環境を作り出すことから、地域でのまちづくりの要望を生み出す
  - JRはリニア実現の主体者、道路やまちづくりに関しては地域の皆さんが主体者
  - まちづくりの成功例（山陽新幹線岡山駅）、・・・高速交通駅との二次的な交通手段の整備とその利便性、観光産業（倉敷の観光）等を交えたトライアングルなまちづくりを標榜すること、まちづくりを住民参加で行うこと
  - リニア坂本駅（岐阜県駅）の具体的な方向性を地政学的な見解を含めて・・・リニア新幹線は東西軸では、巨大な都市圏の構築であると同時に日本海と太平洋をつなぐ南北軸である中部に「黄金の交流地域」へと発展する可能性がある。中津川の良さは、地元の住民より「よそ者」のほうが感ずるものであるが、地元の良さを自覚してのまちづくりができるように、「緑の多い中津川」「歴史と伝統の中津川」の自覚を持った地域の観光産業を。



## 『パネルディスカッション』



- 市岡坂本区長会長：コーディネーター
- 青山節児中津川市長：周辺自治体と連携した観光力を高める取り組みを行っている
- 丸山輝城中津川商工会議所会頭：リニアの見える丘公園に鉄道の歴史を学ぶ施設や道の駅の機能、防災の機能も備えたい
- 須田寛 J R 東海相談役：基調講演の内容を補充

## 『会場からの意見交流と討議について』



リニアが発生させる電磁波問題、環境保全の問題、リニア敷設の背景問題で3名の方から発言があった。これに対しては、須田氏が科学的な根拠を示して、わかりやすく説明された。特に、電磁波の被害については、「身体には全く影響がない」と言明された。ドイツでのリニア撤退は、リニア機種が日本と相違するので、単純に比較することはできないと話された。また、J R 東海は研究と実験を重ねて安全であることが証明されていると話された。



## 『参加者の感想』

「坂本まちづくりフォーラム2015」の感想

心を打たれた人は、私一人ではあるまい！

最後の発言者 細江勲氏（満90歳）



元国鉄・JR勤務・中切在住  
千載一遇の好機、このチャンスに耳にしなくては！

集まった聴衆で会場の中津川市坂本公民館ホールは、枚員礼止めの状態であ

- あれだけ大勢の人が集まるとは、大したものや
- 須田さんの講演は、とてもわかりやすかった。人柄がスーと私たちの心に入って来て、とても聞きやすかった
- 商工会議所会頭が、教育問題で意見を言ってくれたのが良かった。中津川で大学そして、就職し生活できるまちにしなければと思った
- 色々な不安があったが、須田さんの話で、スッキリした
- 最後に発言されたご老人の話を聞いていながら、涙がでてきました。すばらしいフォーラムであった
- 環境を守ろうという意見があり、勉強になった。市長は上手に答えていた

## 5. 濃飛横断自動車道計画の現状について

濃飛横断自動車道計画は、27年3月に都市計画審議会で決定される予定でしたが、オオタカの生息調査のため、おおむね、1年延期されることになりました。

## 正夢「坂本2027年」春

この4月中津川市坂本ではリニア新幹線が約一年前すべての工事を終え、完成した車両基地へ真新しいリニア車両標準編成が次々と運び込まれ、ところ狭ましと並んでいる。

開業に合わせ各編成とも走行試験に合格しており、4月1日の開通式を待つのみである。

新駅は大方の予想に反し、工事方法の進化と様々な新素材の採用など工夫改善により、総工費を約1兆円節約したJR東海は、その分を各駅整備に振り分け「豪華で完璧な駅」を作り各県駅所在地で大称賛を受けている。

一方坂本の教育インフラ整備は、総合こども園が最終的に思わぬ場所に開園、小中学校の教育施設の整備が終わり、子供たちは快適な環境で学べるようになって、教育面で転入者の受入体制は整った。

濃飛横断道路も当初計画の制限時速60kmが、80km制限規格に見直され工事が進み、現在「新美恵橋」が当初予定より下流域に建設中である。

駅前区画整理事業は計画段階から難問山積であったが、中津川市関係当局の懸命な努力により関係地権者の同意が無事得られ、大詰めの段階に入っている。

首都直下型地震、東南海地震などの巨大地震は未だ発生していない。しかし向こう20年間の発生確率は高いものがあり、大手企業は日本のど真ん中で津波の危険皆無のこの地に注目し本社機能、コンピューターセンター、流通センターなどが続々移転を決め、主なものをあげれば、流通のシオングループ、宅配業白猫ヤマト、輸送のセイノー運輸、メガバンク四井復友銀行グループなどが進出計画を発表している。他にも案件は多数ありこれらにより、地域の雇用が改善され若者層の地元回帰定着が期待される。

また「ヒトツ橋大学」の「美濃路キャンパス」設置案、国立国会図書館の総合的な書庫機能を含む「美濃路分館」設置案に加え、「国立美術館岐阜分館および収蔵庫」設置案などが当市の「岩盤地帯設置」に向け国会審議中である。今回は紙面の都合でほんの一部のみの紹介とした。

(本稿は昨日、老衰により他界した「故藪岡 力」氏が書き残したものであります)

合掌(2027年3月)

発行：坂本まちづくり推進協議会 連絡場所：中津川市坂本事務所 発行責任者：市岡勉 編集責任者：安藤鉦治
--